

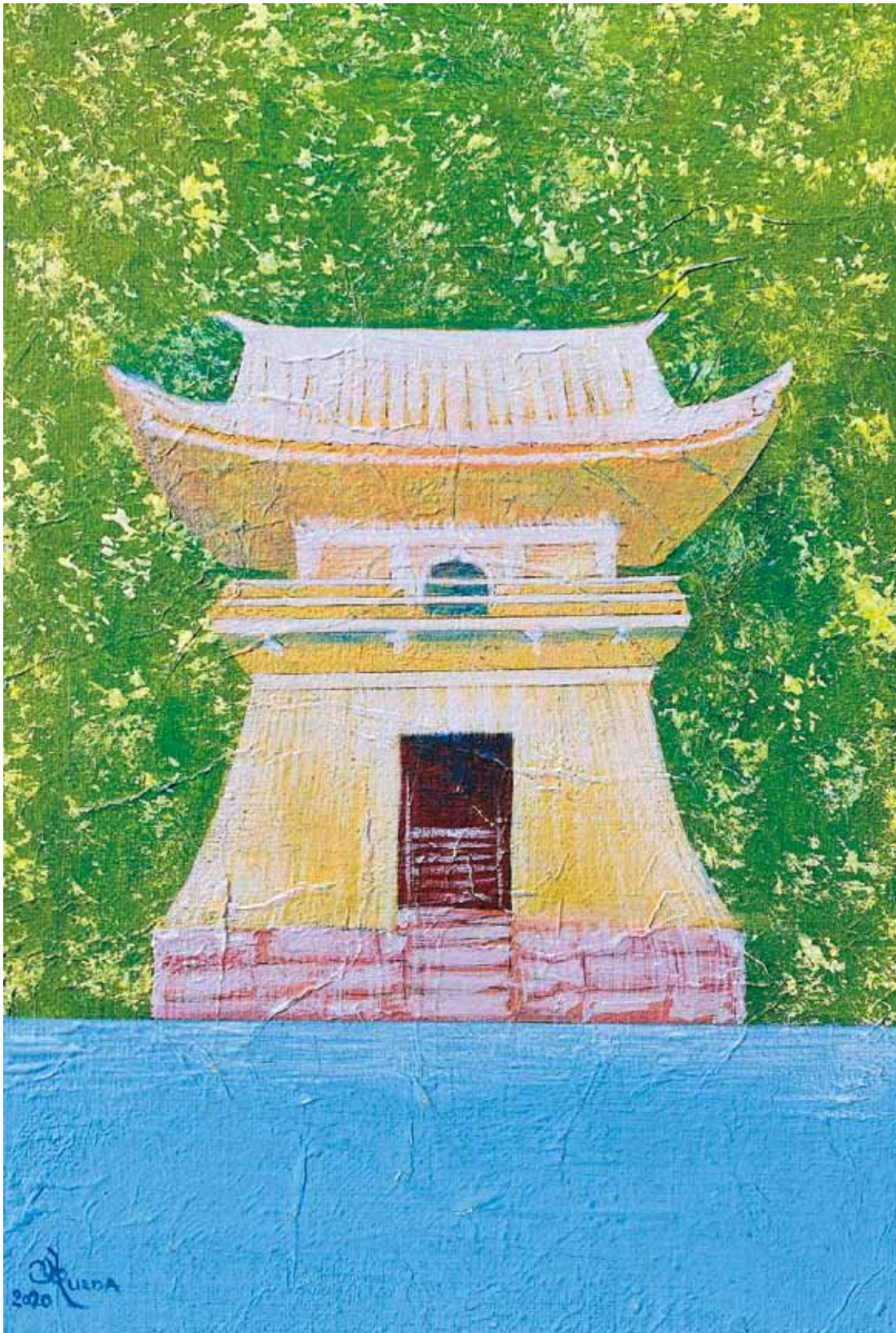
いしづち

2020.5

MAY

No.134

 公益社団法人 愛媛県建築士会
Ehime Society of Architects & Building Engineers
<http://www.ehime-shikai.com>



新企画 世界建築紀行 ガウディ建築とバルセロナ
新企画 スマホで撮る 建築写真 対象別構え位置と歪み補正
令和2年度会費納入時期です

1	世界建築紀行	ガウディ建築とバルセロナ	西予支部 松山 清……①
2	スマホで撮る建築写真	対象別構え位置と歪み補正	中村写真事務所 中村 誠二……③
3	委員会報告	稲荃神社(四国中央市)測量調査	文化財・まちづくり委員会委員 遠藤 禎誌……⑤
		〃	委員長 花岡 直樹……⑤
		令和元年度全国まちづくり委員長会議に出席して	
		文化財・まちづくり委員会 副委員長 峰岡 秀和……⑬	
		〃	委員 若松 一心……⑬
		〃	委員 久保 孝……⑬
		中四国ブロック青年会議に参加して	青年委員長 松平 定真……⑮
		建築士免許証明書交付式・新規建築士免許登録者セミナー	
		青年委員会委員 毛利 政友……⑮	
		理学療法士よしたけさんの講習(異業種セミナー)	女性委員会委員 山田 千尋……⑰
4	支部報告	川之江中学校職業講座	四国中央支部青年委員 稲村 聡……⑱
		〃	青年委員 遠藤 彰騎……⑱
		市坪まちづくり協議会「建築士による防災講座」	松山支部 近藤 岳志……⑲
		松山市立津田中学校全校生徒対象「建築士による防災講座」	
		松山支部研修技術委員会委員長 大内 雄志……⑳	
5	けんちくの輪	私の狭い世間と小さな目標	松山支部 門屋 広一……㉒
		熱量の高い人	松山支部 白石 泰正……㉓
6	お知らせ	第8回理事会議事録	事務局……㉔
		年会費納入のお願い	事務局……㉕
		県政発足記念日知事表彰 尾藤淳一さん受賞	事務局……㉖

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



アクリル画

題：「大宝寺 鐘樓の鐘」上田 勇一
[表紙画について]

県指定文化財

室町時代 永徳三年(1383年)

大宝寺は真言宗豊山派、大宝年間(701年～703年) 越智玉興による創建と伝えられる。

※参考文献/松山市ホームページより

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

1974 東京生まれ
1980 小学校から高校まで松山在住
1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞
(愛媛県建築士事務所協会主催)
1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
1996 日本工業大学建築学科 卒業
1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」
(新潮社)の装丁担当
2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞(東京/日動画廊)
2010 愛媛県美術館に作品「ドライブフラワー」收藏される
2015～17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載
絵画教室やオリジナルブランド額工房「櫛リチエルカ」を設立
2017 「えひめの塗り絵」を出版
その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員/審査員

1 次々に棟が姿を現すサグラダファミリア

2019年8月にサグラダファミリアを訪れると、有名な東面の「生誕のファサード」の4本の塔の右に、もうひとつ回り大きな「マリアの塔」が空に向かって伸びていました。2026年の完成に向かって、さらに4本の「福音史家の塔」も後に姿を見せつつあります。

完成時には中央に「イエスの塔」が聳え、さらに左(南面)に「栄光のファサード」の4本の塔が造られて計18本の塔ができる予定。2015年に訪れた時は西面の「受難のファサード」の塔4本と合わせて計8本でしたが、現在は14本目の「イエスの塔」が工事進行中です。



完成間近のマリアの塔(右側)

2 バルセロナへの旅のきっかけ

サグラダファミリアは1882年に着工したものの資金不足などにより完成までに300年はかかる、と言われていましたが、スペイン経済の発展と世界遺産に登録され拝観料収入が増えたこと、技術の進展などにより2026年の完成が発表されました。「一度はサグラダファミリアを見てみたい」と思うものの実際にはバルセロナまで行けないだろうなあ、という感覚でしたが、ANAがブリュッセルへ新規路線を就航させた時、貯まっていたマイレージを使えばあまりお金もかからずに行ける、と友人から誘われ、宿も日本人が集まる安宿に宿泊することにして、2015年秋バルセロナへ行くことにしました。

3 内部がほぼ完成したサグラダファミリア



生誕のファサード(東面)

1 生誕のファサードと新約聖書

サグラダファミリアの顔とでも言うべき東面の「生誕のファサード」は、たくさんの彫刻で飾られており、それらの芸術性が高く評価されています。その3つの扉や「慈愛の門」の上部にある15体の天使の彫刻は、日本人の主任彫刻家・外尾悦郎氏によるものでした。

これらの彫刻は、新約聖書にあるイエスキリストの誕生から初めての説教までの物語を表現していて、はじめて訪れた時にはその緻密さと素晴らしさに圧倒されたの



▲受胎告知と天使たち

▲東方三博士

ですが、二回目は聖書における、その表現している意味までよく考えることができました。聖書の表紙をこれまで何度かめくってはみたものの、マタイの福音書をわざわざ読んで跳ね返されるばかりで、その内容まで考えることもなかったのですが、サグラダファミリアを訪れたらこのバシリカが聖書そのもののような気がして、再び聖書をしっかりと学ぶべきと思い直しました。

この彫刻には、他にキリストの降誕、神の子イエスの誕生を知った羊飼いたち、嬰兒殺害、聖家族の出エジプトなど聖書に書かれているシーンが表現されていて、それを知ってファサードを見ると教会の持つ奥深い力のようなものを感じます。例えば、聖書でイエス、母マリア、父ヨセフの聖家族が何故エジプトへ行くのかさえも知らなかったのですが、ヘデロ王が神の子イエスの殺害を企んでいたためだと納得しました。つまり、西欧の文化や芸術を理解するためにはキリスト教の理解が欠かせない、絵画などの主題はイエスの生涯を記録した新約聖書の福音書からとられているものがとても多いということを再認識しました。

②衝撃的感動の

内部空間

「生誕のファサード、の「慈愛の門、から内部へ入ると目を疑うような光景と出会い、圧倒されます。教会の内部の天井はリヴとヴォールトによる構成がよく見られますが、サグラダファミリアは全く違った構造のよう



▲生誕のファサードから入場

でした。まるで森の中に迷い込んだ感じ。そこにステンドグラスから神秘的な光線が差し込んできて、中にいる者を不思議な気分にする雰囲気です。また、主祭壇に

はイエスが吊られていて、こんな祭壇はこれまでに見たことがありません。そんな見たものを感動させる設計のコンセプトとデザインでした。



▲主祭壇

③生誕のファサードと新約聖書



▲塔の内側上部



▲屋上での工事現場事務所

生誕のファサードの塔には少人数ですがエレベーターで登ることが出来ました。とうもろこしのような4本の塔は石造りで上部は空洞です。しかし、これから造られる他の塔は、コンクリートのプレキャスト造で工期短縮が計られているそうです。数日見なかったら塔がググッと上に伸びていた、ということもあったそう。フルーツのオブジェの後ろに隠れて、屋上には現場事務所も設置されていました。その他、ファサードの中央にある「生命の木」も間近で見ることができました。

④受難のファサードと地下博物館

西面の「受難のファサード、は「生誕のファサード、と対比的で、キリストの受難と死、最後の晩餐からゴルゴダへの道表現しており、いっさいの飾りもなく、冷たい感じ。彫刻はカタ

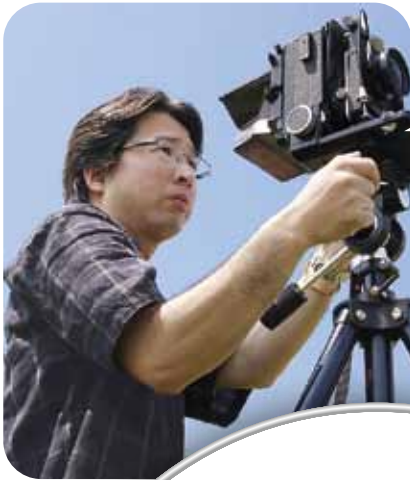


▲受難のファサード (西面)

ルーニャ人のスピラックスによるもので、聖書の世界観の表現と組立が素晴らしく、感動して見入ってしまいました。

この右側に地下博物館の入口があり、そこにはガウディの生涯や教会の模型、工房のような作業空間を観ることができ、展示や整備がさらに進められていました。

<次回につづく>



表題のテーマで一年間連載を担当させていただくことになりましたカメラマンの中村と申します。まずは自己紹介をと思いましたが、文字数に限りがありますので、もし私にご興味のある奇特な方がいらっしゃいましたら右上のQRコードからHPをご覧ください。

テーマ選定について

まずはじめに、なぜ私がこのテーマを選んだのかと申しますと、一昨年、建築士会のセミナー講師をさせていただいたときに**スマホ講座になると皆さんの反応が変わった**からです。それだけ需要があると言いますか、あまり専門的なお話しをするより、スマホを使った撮影や修整法のほうが皆さん興味津々という印象を受けました。

* iPhoneでの操作方法が中心です

それから最初にお断りしておきますが、スマホと言っても私は**iPhoneしか使ったことがありません**。Androidスマホをお使いの方には解りにくいところがあるかもしれませんが、**次号以降で紹介するアプリは共通のものもあります**のでご了承ください。また、私自身は通常スマホで建築撮影することはなく、この連載のために勉強している次第です。それでも一応プロですので皆さんより上手には撮れるのかなと思っています。



オススメ機種 iPhone11

それでは実際の撮り方に入る前にスマホのオススメ機種をご紹介します。スマホで建築撮影される場合はこの記事を書いている3月時点では**iPhone11 (ProでなくてもOK)**一択になるかと思います。

なぜならiPhone11には**35mm換算で13mmという超広角レンズが備わっている**からです。このレンズは私たちが建築撮影でよく使う超広角レンズに極めて近い画角です。以前のモデルだと住宅の内観撮影ではかなり無理がありましたが、iPhone11ならほとんどの建築撮影が可能になります。

Androidスマホでしたら4月下旬発売予定の**Xperia1 IIと10 IIは16mm相当のレンズが付いている**そうなので、こちらもかなり使えそうです。



HPはこちら▶

撮り方

それではお待たせしました。実際の撮り方に移ります。まず**カメラを水平垂直に構える**のは皆さんご存知だと思いますが、構えたときの高さの問題があることが多く、ほとんどの方が目の位置または口元あたりの高さで撮影されていると思います。**高さの基本は外観撮影なら目の高さ、室内では胸の位置が標準的な高さ**です。

また、住宅で和室を撮る場合は畳に直接座る習慣からか胸の位置だと高く感じます。**和室を撮影する場合は正座したときの目の位置が自然に見える高さ**です。実際私も和室では正座して撮影しています。ただ、外観や室内撮影でもキッチンカウンター越しに撮りたい、吹き抜けの高さを表現したい場合などではカメラを上下に仰って撮ることになりますが、その場合は後処理で歪みを補正します。

歪み補正

歪みを補正できるアプリはいくつかありますが、今回はいちばん手っ取り早い**iPhone標準の「写真」アプリ**を使ってみたいと思います。「写真」アプリは手っ取り早いとはいえ、私たちが普段PCで使っているPhotoshopと同様な歪み補正、色調、コントラストなどの調整が行えます。とはいってもスマホの場合、センサーが吐き出す情報量が少ないため、特に明るさを大幅に変えようとするとすぐに破綻してしまいます。露出補正や色調、コントラスト調整はやりすぎ厳禁です。撮影時に露出を調整する場合は撮影画面の中のピントを合わせたい箇所をタップ→黄色の四角い枠とその右横に太陽マークが出るので（出ている間に）画面中のどこでも構わないので上下にスワイプすると明るさを調整できます。

それでは実際の歪み補正作業です。



▲補正前

▼補正後



歪み補正作業手順

アプリで写真を表示させたら
右上の【編集】をタップ→

- ①画面右下のトリミングアイコンをタップ
- ②台形のアイコンをタップ
- ③スライダーを動かして歪みを調整する。

できたら右上のチェックマークをタップすると保存されます。なお、被写体によってはトリミングアイコンをタップすると画面上中央の【自動】が点灯し即座に歪みが自動補正される場合があります。（手動で補正する場合は【自動】をタップで解除可）ただ、あらゆる修整は画質の劣化を伴います。歪み補正は仕方ないにしても露出補正はしなくて済むように撮るのが理想です。

さて次号以降ではサードパーティ製アプリを使ったより精度の高い撮影や修整を行います。お楽しみに！

稲茎神社(四国中央市新宮町神山)測量調査

文化財・まちづくり委員会 委員 遠藤 禎誌
委員長 花岡 直樹

今回の調査に至った経緯 (遠藤禎誌)

平成29年度に文化財・まちづくり委員会で実測調査し、『愛媛の古建築を訪ねて』に掲載された安楽寺本堂が、平成31年4月1日に四国中央市の文化財に指定されたことを受け、愛媛東部史談会と建築士会四国中央支部(尾藤淳一支部長)の共催で、令和元年11月4日に“安楽寺本堂文化財指定記念シンポジウム”を開催した。156名の市民の参加を得て、安楽寺本堂現地説明会(講師:花岡直樹委員長・峰岡秀和副委員長)と、寺尾保仁名誉会長をコーディネーターとするパネルディスカッションを行った。

これを契機に、安楽寺と隣接する稲茎神社が参加者の目に留まり、文化財的価値のある建築であると認識され、稲茎神社も実測調査しようという意見が出された。明治元年の神仏分離令による廃仏毀釈運動がおこるまでは、神仏習合形態であったと推測される稲茎神社と安楽寺を一体のものとして調査・資料化しようという運びとなった。

稲茎神社の立地と歴史について

稲茎神社は四国中央市新宮町(旧宇摩郡新宮村)上山6178番地に所在し、創立は1538年(天正7年)とされている。

新宮町上山地区は、藤原鎌足を祖とする公家の日野光朝が、室町幕府10代将軍再任期の足利義隆より伊予の国宇摩郡を武功褒章として賜り、荘園領主として1511年(永生8年)に入府し、30数年後の12代将軍足利義晴の時代の1538年(天正7年)に稲茎神社を勧請したと伝えられている。また、上山地区は都に近い東より上の庄・中の庄・下の庄に分かれており、上の庄には稲茎神社、中の庄には日野光朝の祇園祭への想いが託されたとされる素鷲神社、下の庄には同名の稲茎神社がある。今回調査した稲茎神社は上の庄にある東稲茎神社で、これに対して下の庄の稲茎神社は西稲茎神社とも呼ばれている。この当時は、室町幕府の力も衰退し、1534年に織田信長、1537年に豊臣秀吉、1541年には徳川家康が生まれており、時代はまさに戦乱の世に移っていかうとしている時代であった。その後、日野氏は河野氏の支配下となり、毛利元就に助勢を求めるなど武族としての力は衰え、江戸時代には帰農している。

稲茎神社には国土経営・開拓の神とされる大那牟遲神、穀物の神の宇賀魂神、山や丘を造った神の少彦名神、五穀の神である稚産靈神の4神を祀っている。これからも、日野氏が上山地区の奉事に腐心し、民の繁栄を願っていたことが伺える。

現在の社殿は明治27年に本殿・中殿共に建築したとあり、徳川式(権現造り)と記された額札が拜殿に掛けられている。明治初期の新宮地区は1万人を超える人口を有していたとの説もあり、建築当時の上山地区は繁栄し、財力があつたと類推でき、このような立派な社殿建築が可能であったと思われる。

建物の特徴について (花岡直樹)

拜殿: 桁行(正面)3間、梁間(側面)2間の平屋の建物で青石(緑泥片岩)の石垣を積んだ基壇の上に建つ。屋根は入母屋造平入りで、変形の瓦が葺かれている。大棟の高く積まれた熨斗瓦に、金色の三つ巴の2つの紋が輝いている。軒の出も大きく端部の反りも軽快で、全体に優美な印象を与える。軒は三軒となっている。これは、最下段にある地垂木の上に2段に飛檐垂木を乗せたもので、大きな軒を支えるのに用いられる珍しいものである。垂木間隔は正面中央が20枝、両脇が10枝の疎垂木で、枯木の吊り金物は飛檐垂木の下段に見られる。

柱はケヤキ材6寸5分(197mm)角で、柱上には頭貫を通し、台輪を乗せるが、柱上端には粽を取っていない。組み物は出組(一手先)で肘木の下部が円弧状になっていること、尾垂木の先端が細くなっていること、また柱間の中備にも組み物を使うことなど、禅宗様(唐様)の手法である。

正面の柱間は中央が4枚、両脇が2枚の引き違い舞良戸で、各柱間の鴨居の上に虹梁を乗せている。正面のものは両脇より1段高くし上部は頭貫に接している。また、正面と両側面の3方に廻り縁を巡らせている。内部は床が板張り、天井は竿縁天井となっているが、ともに後補のものである。

建物全体に多種の彫刻が施されているのも特徴的である。正面中央の虹梁には竜が波に泳ぐ様子を描いたりアルな彫刻が施されている。また、中央両脇柱には「唐獅子」、隅の柱には両方向に気を吐く「螭」、側面中央には「象」の木鼻がつけられている。支輪板には全体にわたって波模様が彫られている。

中殿: 中殿は拜殿と同時期に建てられたものと思われ、拜殿に接続する形で建てられている。屋根は、棟が拜殿に直行する切妻造である。現在は銅板葺きであるが、建築当初は茅葺きだったそうである。内部は当初の様子をよく残しているが、外部は屋根が葺き替えられ、左右に物置や集会室を増築しているなど、変更が大きい。

本殿：拝殿より一段高い地盤にさらに青石の基壇を積み、その上の御影石の基礎石の上に建っている。一間社入母屋造、銅板葺きで、正面に千鳥破風を備え、向拝部分は大屋根を葺き下ろし、軒唐破風を付けている。棟の両端に千木と鯉木を組み合わせて乗せている。水板部分には拝殿と同様、金色の三つ巴の紋を配している。組み物は和様三手先斗拱とし、軒は二軒。このため本体に対して屋根が大きく張り出し、豪放かつ優美な外観を呈している。

建物本体はケヤキの円柱、向拝はツガの角柱で、几帳面が取られている。向拝には浜床が設けられ、5級の階で本体の四周を巡る廻り縁につながる。廻り縁の高欄の四隅は刎高欄で、両側奥には斜め45度方向を向いた脇障子を備えている。正面の扉は棧唐戸で大きな三つ巴の紋の廻りに波が沸き立つ様子を描いた独特のデザインである。

本殿も拝殿以上にたくさんの彫刻で飾られている。まず正面扉の両脇には、右側に上り龍、左側に下り龍が、脇障子には龍と虎が睨みあう様子がリアルに描かれている。木鼻は唐獅子で、中備には臺股の位置に動物の彫刻が施されている。正面は鍵と経をくわえた狐、側面は麒麟(?)、背面は鳥が描かれている。向拝は、水引虹梁の

下に親子の唐獅子と牡丹、上には鶴、木鼻は獏、兔毛通しに龍と、多くの種類のリアルな動植物の彫刻で飾られている。両妻と正面千鳥破風にも懸魚に鶴、桁隠しに鳥(種類不明)の彫刻が見られる。

縁は二手先組み物で縁桁を支え、縁廻りにも耳と蓑を持つ亀、波間を飛ぶ鳥、背中に甲羅を持つ犀などで飾られ、階両側の手摺下には滝を登る鯉(登竜門)が描かれている。

これらの一見過剰とも思われるリアルで精緻な彫刻は、江戸末期から大正期にかけて南予や中予、さらには高知県で活躍した「長州大工」の作風に似ているところもある。軒裏の通し肘木の上に斗を密に並べる手法も同様であり、今後正確な建築年代も含めて、建築や彫刻に携わった技術者の研究も引き続き行う必要があると思われる。

調査年月日：令和2年1月25日(土)

調査、図面・報告文作成

委員：遠藤禎誌、久保 孝、酒井慶治、西浦郁子
花岡直樹、峰岡秀和

ヘリテージ修了者：遠藤彰騎、花岡晶子、峰岡義則

立ち会い：山辺宮司、大西責任総代



拝殿正面の額 本殿が明治29年建立と記されている



安楽寺(左)と稲茎神社



拝殿内の記録札 こちらには本殿と中殿が明治27年とある



鳥居と拝殿



右から拝殿・中殿・本殿



木鼻の獅子の彫刻



拝殿全景



隅の木鼻 蟹が気を吐く様子



正面の龍が彫刻された水引虹梁



側面の木鼻は象



拝殿の軒裏 化粧垂木が3段になる「三軒」



拝殿内部正面 奥は一段上がった中殿に繋がる



本殿全景



側面の墓股 麒麟か？



本殿の屋根の様子



向拝部分 親子の唐獅子(下)と鶴



正面の扉 両脇に上り龍と下り龍



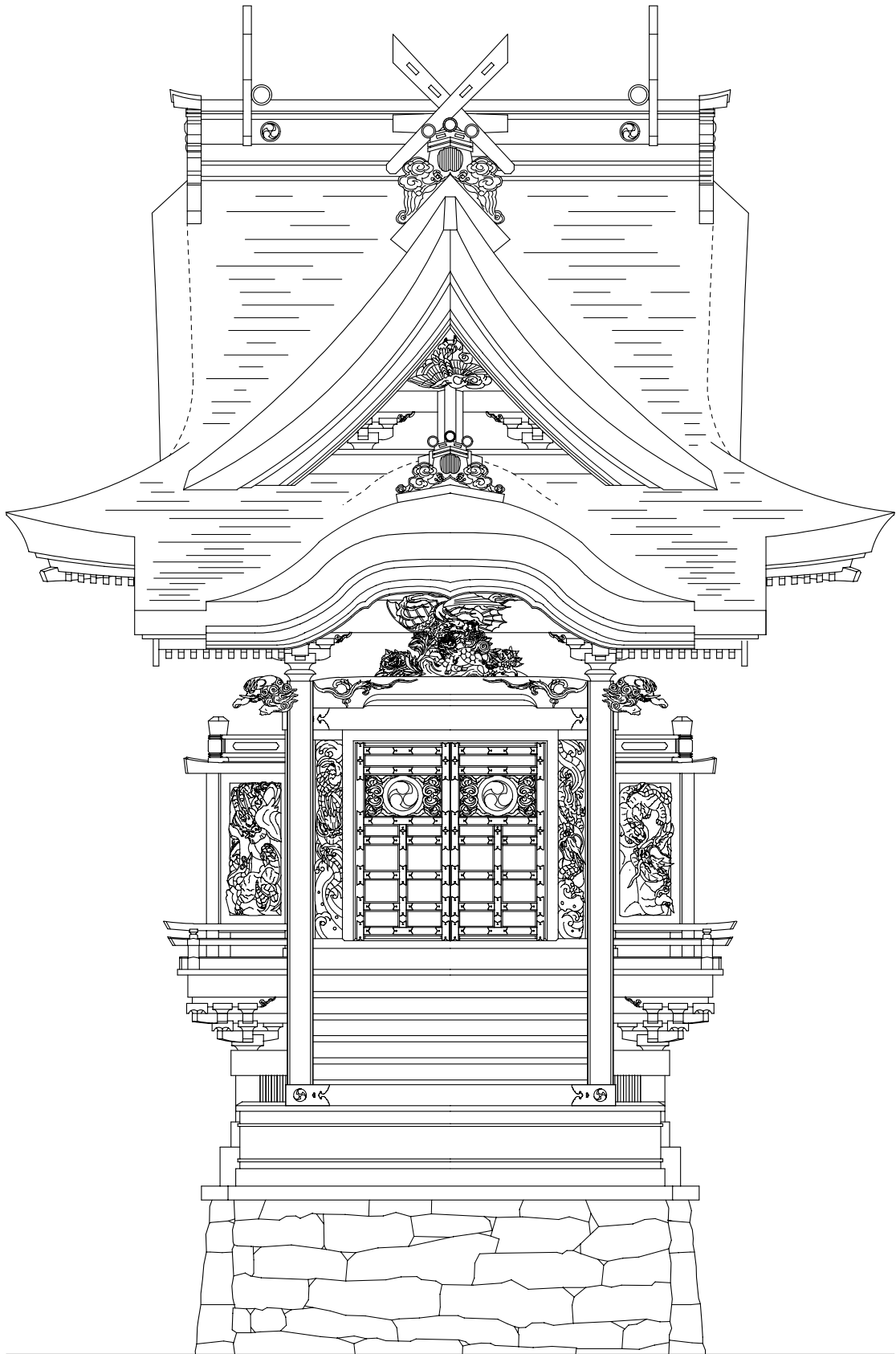
縁廻りの彫刻



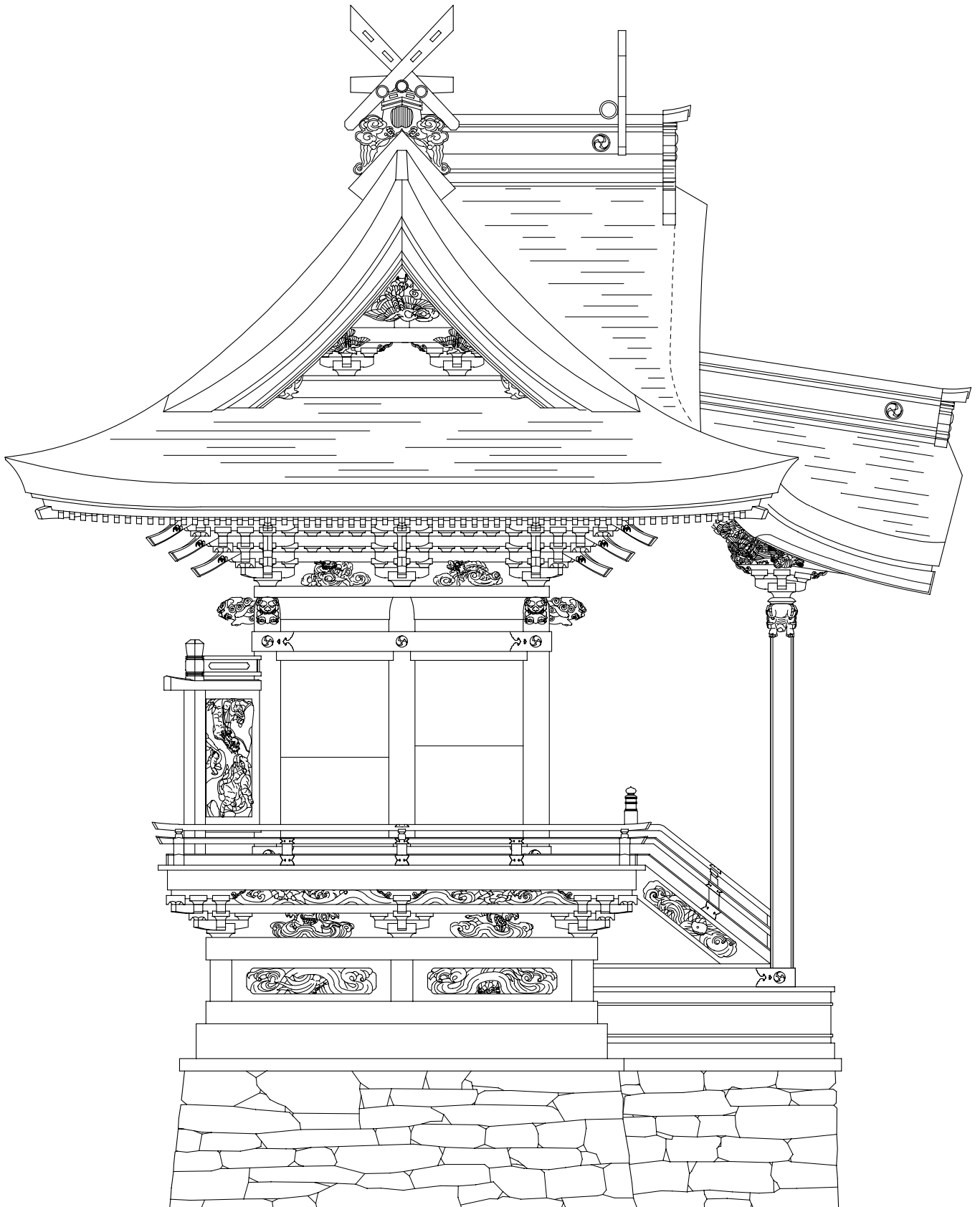
脇障子の彫刻 睨みあう龍と虎



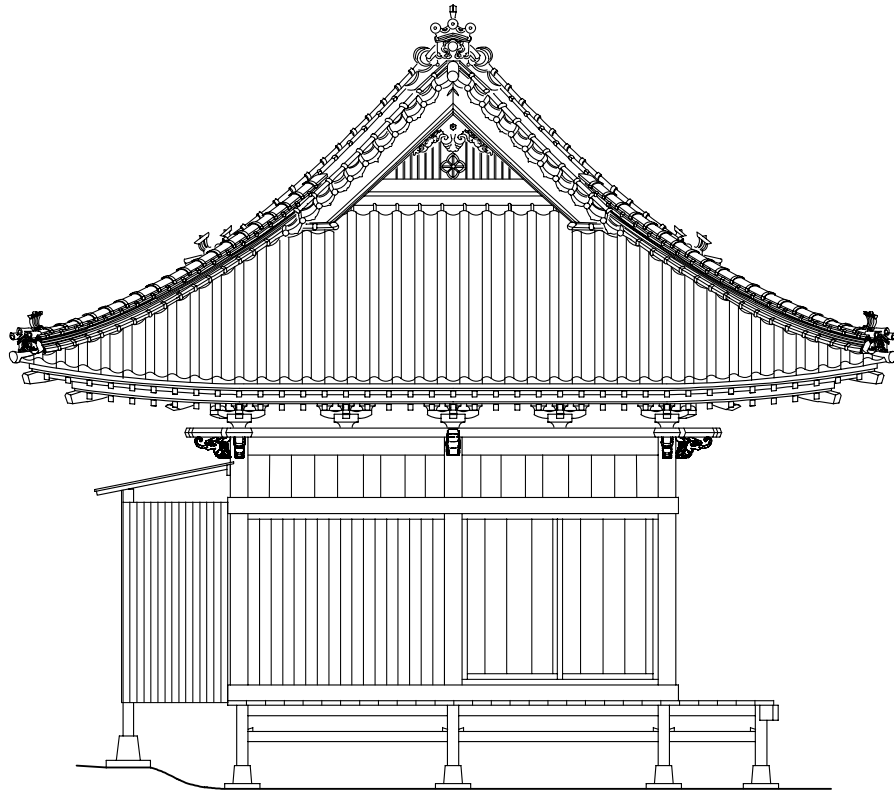
同上詳細 上から鳥、犀、蓑亀の彫刻



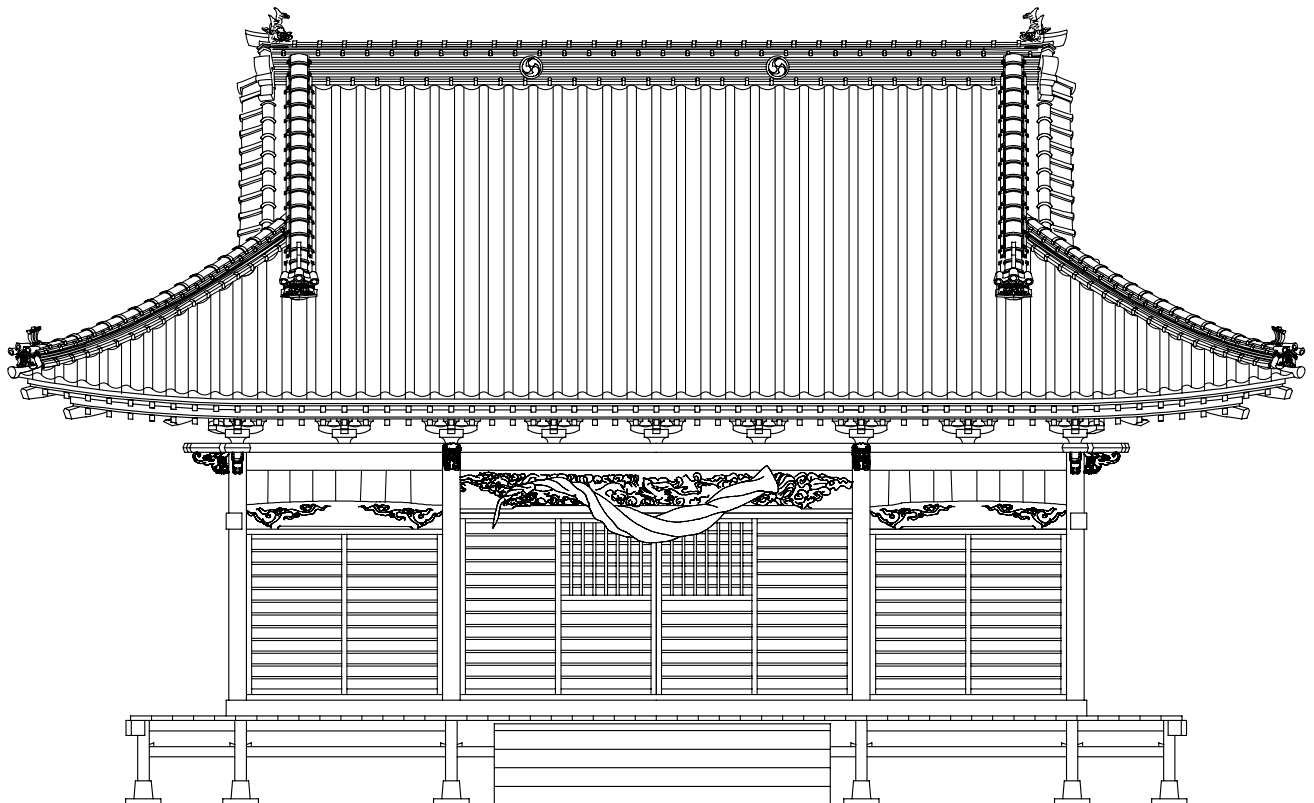
本殿西立面図



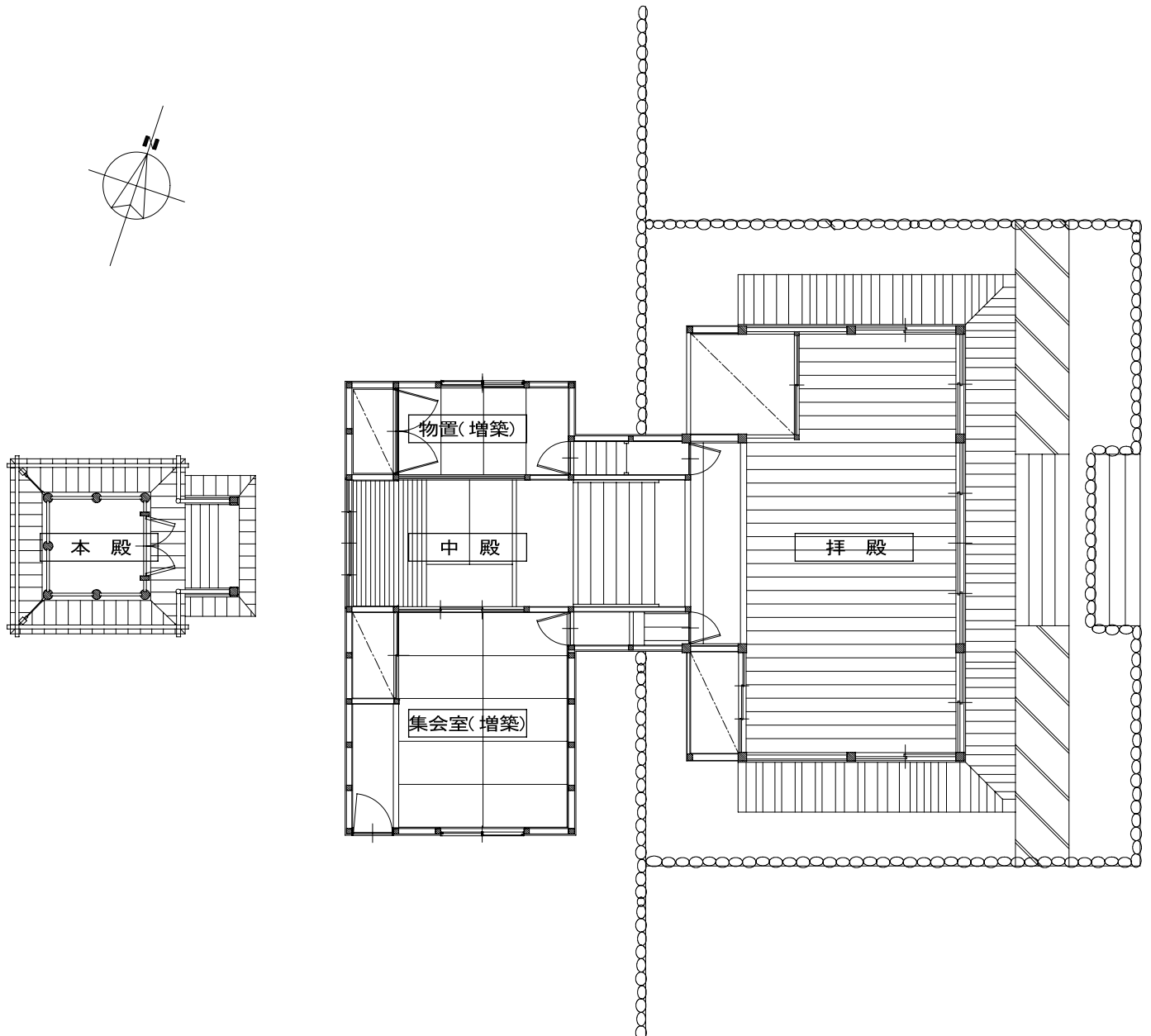
本殿北立面図



拝殿北立面図



拝殿西立面図



平面図

令和元年度全国まちづくり委員長会議に出席して

文化財・まちづくり委員会 峰岡 秀和

場 所：東京都港区 笹川記念会館
出席者：峰岡秀和、若松一心、久保孝

第1日目(1月31日)

- 講演：東京2020「いままで」と「これから」のまちづくり 陣内秀信（法政大学特任教授）
- 事例報告：東京のまちづくり／景観・歴史・防災・街中・福祉の観点で
- パネルディスカッションと質疑応答
- 交流会

第2日目(2月1日)

- 分科会（防災・歴史・景観・街中・福祉）「まちづくりの課題と今後の方向性を探る」
- 全体会議「まちづくりの課題と今後の方向性を探る」

★若松一心

今回は東京での開催ということで、都内で行われているまちづくりの活動報告がありました。都市部でも地域に根を張って長期間にわたり活動している団体が存在する事が確認できた事は良かったです。ワークショップでは、まちづくりを防災、歴史、景観、街中、福祉の5部会に分けて行われました。一言で「まちづくり」といっても活動範囲は果てしなく広く、ひとくくりで考える事は難しいと思っています。私は街中部会に参加しました。部会ごとに議題はいくつかあり、私達は「シャッター通りの解決策について」、「狭あい道路のなかの街中防災」、「街中で自然環境を残すルールづくり」、目新しいものでは「銭湯の生態系について」という盛りだくさんな内容でした。狭あい道路問題や防災、中心市街地問題、商店街活性化、どれも魅力的な内容で自分が現在直面している話題には聞き入ってしまいました。

ただ事例報告に時間の大半が使われ、意見交換の時間があまり無かった事は非常に残念でした。それと、まちづくり活動で必要となる資金や時間、人材等の育て方等、事例報告においては表面しか伝わってこなかった事も残念。せっかく全国から集まっているのですからもっと問題点や改善方法について地方同士の意見交換にも時間を割くべきだと感じました。今回は私と峰岡さん、久保さんの委員3人で参加しました。各々手に残るものがなにか見つかったようです。

★峰岡秀和

今回は東京での会議ということで、事例報告は都会な

らではの内容でしたが、消えてゆく建造物を含め、どのような形で文化を残してゆか、観光としてのまちづくりではなく住んでいる人が誇りに思えるまちづくりなど、地方でも活用できるヒントがたくさんありました。

2日目の分科会では歴史まちづくりに参加しました。「若い人が」という事で発表を任されましたが、みなさんの熱い視線に圧倒され、いい経験で終わってしまったのが残念でした。

広義での「まちづくり」を連合会ではわかりやすく、「景観」「防災」「歴史」「街中（空き家）」「福祉」の5つに分類しています。これらは別々ではなく、例えば空き家と防災など、互いに考えてゆかねばならないことも少なくはありません。今後、愛媛県でも文化財だけでなく、広い視点で見てゆく事が大切だと思います。

令和2年度の中四国まちづくり委員長会議は8月初旬に行われる予定で、愛媛県が開催県となっています。愛媛県から様々なことが発信できるよう、また近隣県と連携が取れるよう、これからもより一層努力してゆかねばならないと感じました。

★久保 孝

東京で行われた、全国まちづくり委員長会議の報告をさせていただきます。

花岡委員長より委員長会議の出席について、若松さん峰岡さんと私に打診をいただいた際、立場的にお断りを考えておりましたが、その後3人で相談し出席させていただく事にしました。

開催テーマは「いままでとこれからのまちづくりを探る」と言う事で、1日目は講演(法政大学特任教授：陣内秀信氏による「いままで」と「これから」のまちづくり)の後、東京のまちづくりについて事例報告がありました。愛媛から東京を見た時、人の関わりが希薄で日々生活を取り巻く物が生まれては消えてゆく、を繰り返していると言ったイメージを持っていたので、東京建築士会が行っているまちづくり／景観・歴史・防災・街中（空き家）・福祉には興味がありました。

それぞれに取り組まれています、東京でのまちづくりはやはり難しいと言うのが一番の感想です。又、都市と地方ではまちづくりで抱えている問題が全く違うと言う事も気付きました。空き家対策で例をあげると、都市は空き家が出来ると不動産屋が次の開発の為に土地建物を取得してしまい、街並みを維持できないのに対し、地方では持ち主不在で放置状態となってしまう事が多い点等

です。2日目はワークショップがあり、若松さんと一緒に街中部会に参加しました。活発な意見は出ましたが、まとめた内容を発表するため意見を出し合った感が多少あったかと思いました。プログラム最終の事務連絡では、各県のまちづくりの取り組みの報告があり、連合会が各県まちづくり委員会に求める活動テーマの景観・歴史・

防災・空き家・福祉を満足に活動できている県は無いに等しい状態と理解しました。実際テーマ全般についての活動はなかなか難しいと思いますが、愛媛においてもまちづくりと言った観点での活動は劣っていると思いますので活動の取り組み方について、何か仕掛けが必要ではないかと感じました。



会場となった笹川記念館



歴史まちづくり部会での発表



1日目 全国まちづくり会議の様子



全国まちづくり委員長会議の様子



2日目 分科会による話し合いの様子



中四国ブロックでの話し合いの様子

中四国ブロック青年会議に参加して

青年委員長 松平 定真

開催日：令和2年1月25日(土)
場 所：岡山県図書館サークル活動室
出席者：松平定真、長岡康広、和田崇(3名)

令和2年1月25日に、岡山県での中四国ブロック青年理事会・青年会議に出席しました。

青年理事会では、主に今年6月にある中四国ブロック愛媛大会について、長岡実行委員長、和田副委員長と、ほぼ最終の協議を致しました。1月25日の時点では今のようコロナ感染は大きな話題にはなっておらず、開催に向けて細かい打合せを進めました。(残念ながら、この原稿を書く前日に赤根会長に大会を中止する旨を伝えました……)

来年は、中四国ブロック大会は山口県下関市で行われる予定です。また、ツアーを組んで大勢で楽しく参加したいと思います。

青年会議では「防災を学ぶ～避難所運営ゲーム『チャレンジ!』、体験ワークショップ」をテーマとして、明石

工業高等専門学校が作成したワークショップを行いました。

近年、頻発する豪雨・土砂災害や近い将来発生が確実視される南海トラフ大地震。こうした出来事や情報に触れる機会が増えるとともに、人々の防災意識も日々高まりつつあります。とはいえ、防災活動はまだまだ堅苦しく捉えられたり、どこか遠い出来事のように感じられる人も多く、特に現役世代にとっては後回しになりがちな取り組みです。今回参加させてもらった、避難所運営ゲーム『チャレンジ』は、ほかの避難所運営ゲームよりも手軽にでき、また、ゲームに近い要素があるので楽しみながら進めていくことができました。

いざというときに頼れる存在となるのが、われわれ現役世代だということですので、愛媛県でもこのワークショップを開催できたらと思います。

今年度で、青年委員長を交代しますが(オーバーエイジの為……)中四国ブロックでいろいろ学んだことや、大切な仲間が増えたことに感謝したいと思います。

建築士免許証明書交付式・新規建築士免許登録者セミナー

青年委員会 委員 毛利 政友

日 程：令和2年2月23日(日) 14:00～
場 所：いよてつ会館
参加者：27名

元号が令和となった初めての年度に、青年委員会主催による令和元年度建築士免許証明書交付式・新規建築士免許登録者セミナーを開催しました。

一級建築士17名、二級建築士10名の合計27名の方の参加があり、ご多用中のところご臨席いただきました。愛媛県土木部道路都市局建築住宅課課長の山下道和様よりご祝辞をいただき、それに続く交付式では、赤根会長から手渡しで免許証を交付していただきました。

私自身、この交付式のお手伝いを何度かさせていただいていますが、日頃よりお世話になっている方も合格されていました。時間を削りながら努力し頑張った結果、今回の合格を掴まれたと思うと、自分のことのように

うれしく思いました。

新規建築士免許登録者セミナーでは、南予地方局建設部建築指導課 安藤雅人 課長をお招きして、建築士と



して行う業務や建築士の負う責任等について講義をいただきました。

従来とは異なり対話形式により進められます。新しく建築士となった皆さんはもちろん、会場内で控えている我々青年委員にも質問が来るのでは、と身構えてしまいます。建築家と建築士の違い、建築設計と土木設計の違いなど、漠然としたイメージは持っていますが、いざ言葉にすると中々出てこない……。会場内にいらっしゃった全員が、いつにない緊張感を持ったセミナーになったと思います。

会場を移して行われた祝賀交流会では、参加された皆さんと共に合格されたことをお祝いしました。また是非建築士会に入っただけのよう、青年委員の皆が活動内容などを紹介しながらアピールをしました。

建築士会は建築士個人が入会します。設計者や確認検査機関に所属する人など、様々な職業の集まりが建築士会となります。参加された皆様のコミュニケーションから、建築の輪を広げ大勢の仲間をつくり、今後のスキル



アップにつながっていけばと思います。

今回の一級・二級建築士試験に合格された皆様、本当におめでとうございます。建築士としてより一層ご活躍されることを願います。



理学療法士よしたけさんの講習 (異業種セミナー)

女性委員会 委員 山田 千尋

会議室の真ん中に組まれた卓球台、アチャよしたけと書かれたプロフィール、「今日講習会ですよね?」と思いつきながら皆さん席に着いたのではないのでしょうか。

2月1日(土)に参加者8名で行われた異業種セミナーは、理学療法士の吉武さんを講師に迎え、講義して頂きました。

吉武さんは多方面に渡り活躍している方で、講義では語り尽くせないほどの趣味や理念をお持ちでした。

講義が始まるなり私たちは、まず卓球療法という、楽しい遊びをしました。種目にとらわれない、エアホッケーのような遊びもしました。意外と難しく、コントロールや反射神経等、小さな空間で色々な感覚を使うのだなと思いつきながら、ただただ楽しくわいわいと遊びました。



この卓球療法という方法で、身体疾患・精神疾患の方の健康やコミュニケーション向上を図るのだそうです。ばけ防止にも効果的なんだとか。

卓球は場所や道具も比較的確保がしやすく、地元の役場の広いロビーにおいてはどうだろうと、ふと頭をよぎりました。

またサイクリングにも力を入れていらっしゃる、今治で自転車ツアーを通して町づくり活動をされていました。自転車だけでなく、ヨガや食事等で楽しんだり勉強できるのだそう。

体の健康は運動をする事と食べる事、運動は楽しみながらじゃないと続かない。食事はバランス良く食べる為に知識がいる。吉武さんが活動されているようなイベントは心と体両方の健康に大切なんだと、改めて考えさせられました。

またこれらは町づくり、地域おこしを絡めているようで、色んな人にこの活動を広める為にHPを考えたり、地域のお店や観光地の地図を作っていたり。その道のプロとプロが集まって考え、行動して楽しんでいました。



吉武さんは、「リハビリとは身体部位の機能回復のみを目的としているのではなく、その人がその人らしく生きられるようにするために行う。」という理念をいろいろなところに発信、行動しています。

理学療法といえば、病院関係の事、機能訓練の事をお話頂くのかなと思っていましたがそうではなく、とても面白いお話を聞かせていただきました。

今回この交流会に参加できて良かったなと思います。

この講義後、焼き鳥専門店に行きました。

上品なお店で串をお任せで頼むスタイル。脂を落とし欲しくないからお皿に置かない串やブルーベリーのソースにリンゴとのコラボ。

一本一本大将のこだわりを詰め込み、試行錯誤したんだろうと、設計と重ねながら、ここでも異業種セミナーをしたような気分美味しくいただいたのでした。

川之江中学校職業講座

四国中央支部 青年委員 稲村 聡
青年委員 遠藤 彰騎

日時：令和2年2月6日(水)

場所：川之江北中学校

参加人数：中学1年生19名 支部青年委員2名

毎年恒例となっておりますが、今年も中学生向け職業講座が開催されました。これはどういう事業かと言いますと、学校側からの依頼により将来就業する若者たちに身近な地元の大人が実際のその職業の魅力、厳しさなどを伝えてもらい、将来の職業選択の一助になって欲しいとの要望によるものです。我々建築士会青年委員は建設業について受け持ちましたが、その他に地元の企業さんでケーブルテレビ、幼稚園、看護師、料亭、漁業関係者、消防士、などの方々が来られていました。

毎年の事ですが、事業開催前には校長室に集合して待機するわけなのですが、参加者一同お互いの顔を見合わせて口にするのが「今年はどういった内容で行くの?」ということです。いかに中学1年生の子供たちに興味を持ってもらう内容にするのかみんな真剣に準備して臨んでいます。私の前の方は漁業関係者だったのですが、終わって校長室に帰ってきたときに感想を聞くと、「バッチリだったよ」と。どういった話をしたのですかと聞くと、「これを配ったんだよ」と、見せて頂いたのが真珠でした。そりゃ、食いつくわ〜と思いながら私も負けてはいられないと授業に臨みました。



さて、私の授業内容ですが、建設業ということなのでまず最初に建設業は建築業と土木業の2つに大別されることから説明しました。建築業は求められる住空間を造って街を造る産業であること、土木業は道路、ダムなどの社会インフラを維持し、防災のためのインフラを構築して街を守る産業であることをお話しさせていただきました。と、ここまでは一般的な概論に過ぎないのですが、こ

こから生徒とのキャッチボール的な話に移ります。生徒への投げかけた質問が次の通りです。

「100年後の建築物はどういったものだろうか?」いきなり質問されて生徒たちはさっぱり想像がつかないといった感じでしたので、参考に100年前の日本人が想像した世界を特集した雑誌の記事を紹介しました。大正9年の雑誌記事で、当時の日本人が予想した100年後の世界観が挿絵と一緒に紹介されていました。面白いのは結構当たっているものがあることで、スマホや飛行機での移動、消防ポンプ車など現在に通じるものがあったということです。そういった実際の昔の話を聞いて生徒たちも真剣に考え始めたようです。



最後に私の方から未来の建築物として紹介させていただいたものが、いま現実に動いているプロジェクトの紹介です。大手ゼネコンに実際にある部署の研究で将来の気候変動に対応した海上都市の建設プロジェクト、日本で一部実験的に行われているIT対応住宅の実証実験の動きなどを紹介させていただきました。

一通り授業を終えて最後に生徒からの質問に対応したのですが、参考に持ってきていた設計図・施工図にみんな興味津々な様子で、特に女生徒から質問が多かったように思えます。聞いてみると、建築士に興味があるとのこと。女性建築士・設計士も結構たくさんいらっしゃいますよと応じておきました。

近い将来、この地元で建築に携わる若者が増えてくれたら嬉しいのですが、今後もこういった若者との接点になるような事業を継続して、業界の発展に繋がればと思う次第です。取り合えず、今年も滑らずに終わることが出来ました。

最後に、一緒に参加してもらった遠藤青年委員ありがとう。来年も宜しく願いいたします。

市坪まちづくり協議会 「建築士による防災講座」

松山支部 近藤 岳志

令和2年1月17日(金)に松山市市坪南集会所にて、市坪まちづくり協議会さん(以下、市坪まち協)に向けて「建築士による防災講座」を開催させて頂きました。

市坪町内会では、3年に1度開催されている防災講座を、令和2年3月20日(金)に開催予定で、その役員を対象とした「建築士による防災講座」を開催することになりました。

市坪町では、新しい住宅が増える一方、古い住宅や、空き家等も増えておりますので、町内全体で防災・減災意識の向上が必要です。



耐震模型を2台セットした状態

今回、以下4つのことを55分間でお話ししました。

1. 地震の恐ろしさ
2. 木造住宅の耐震化の重要性(耐震模型加振)
3. 耐震診断・耐震改修の補助金の制度
4. 家具の転倒防止について

1つ目に、「地震の恐ろしさ」というテーマでスライドを使って、近い将来、南海トラフ巨大地震は30年以内に70%~80%の確率で発生し、必ず大震災はやってくることをお伝えしました。



地震のおそろしさをスライドで説明

特に昭和56年5月以前に建てられた木造住宅については、旧耐震基準の為、震度6強~震度7の大きな揺れにより、倒壊してしまう可能性がほぼ100%という内閣府の調査データが出ています。

会場にお越しの方で、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅に住まれている方は、アンケートの結果、46人中7名、約15%の方が対象でした。その内、2名の方はすでに耐震補強済みでした。

2つ目に、木造住宅の耐震化の重要性というテーマで、耐震模型の2台の内、1台は「赤色に塗った筋かい」により適切に補強した状態、もう1台は筋かいを全く入れない状態で加振し、筋かいを入れないと倒壊することを確認しました。

次に、一般的な住宅でよく見られる南側に大きな窓があることを想定し、全体の筋かいの数は、適切な補強と同じ数ですが、筋かいのバランスが南北側で偏っている状態と、もう1台は適切な補強で加振し、まず2台の揺れ方が違う事を見て頂きました。加振を続けると、不適切な補強の方が倒壊しました。

今回、士会メンバーが集まらなかったこともあり、倒壊後の模型の復旧は、市坪まち協の防災士の方へお願いし、初めての作業にも関わらず、スムーズに復旧作業を行って頂きました。

アンケートにも参加者からご意見を頂きましたが、耐震模型のように、不適切な補強の模型が倒壊する状況を目の当たりにすると、専門的な知識が無くても、耐震化の重要性を感じる事ができたと思います。



不適切な筋かい配置と適切な筋かい配置の耐震模型を加振



不適切な筋かい配置の耐震模型が倒壊(左側)

3つ目に、愛媛県土木部道路都市局建築住宅課建築指導係の藤井大樹さんに補助金についてご説明頂きました。昭和56年5月以前に着工された木造住宅が対象で、愛媛県から出ている木造住宅の耐震診断・耐震改修についての補助制度についてご紹介いたしました。松山市では、耐震診断から工事まで行くと116万円以上の補助金が出ます。来年度から補助制度が一部変わる予定です。



藤井大樹さんによる補助金の説明

説明後に、パフォーマンスをさせて頂き、耐震化が「命」を守ることを覚えて頂いたと思います。

4つ目に、耐震化をしっかりと行っても、家具が倒壊して、怪我をしまつては意味が無いということで、私達の身近にあるホームセンター「DCMダイキ」さんで取り扱いのある家具転倒防止や防災グッズをご紹介しました。

ご参加頂いた方からアンケートにご記入頂き、46名の方からご回答を頂きました。全体的に講座内容について、高い評価を頂きました。ご意見の中には、「過去に耐震診断を行ったが、予算面で納得出来ず工事は未実施」というご意見もあり、今後の課題だと思えます。

今後も耐震模型等を使って、愛媛県の耐震化率が上がるような防災講座を継続的に開催したいと考えております。

最後に、この防災講座にご出席、ご協力頂きましたみなさま、ありがとうございました。

防災講座参加メンバー（敬称略・順不同）：藤井大樹（愛媛県庁）、武智良太（西地区）、西浦郁子、近藤岳志（南地区） 計4名。

松山市立津田中学校全校生徒対象 「建築士による防災講座」

松山支部研修技術委員会 委員長 大内 雄志

日時：令和2年2月25(水) 14:10～14:50

場所：津田中学校体育館

去る令和2年2月、建築士による防災講座 in 津田中学校にスタッフとして参加してまいりました。

前回12月に開催された椿中学校に引き続き、学校生徒550名を対象とした大規模な防災講座です。当日は1月から本格的に報道されている新型コロナウイルスの影響もあり、生徒さんの多数がマスクを着用しての参加でしたが無事開催する運びとなりました。

当日13:00より準備で会場入りし、初めて見る耐震模型を恐る恐るセッティングしつつ、本日の流れと役割分担を確認、いざりハーサルを実施します。

私の担当は耐震模型（適切な補強がされた模型と適切に補強がされていない模型）の加振を実演し、生徒のみなさんに2台の模型の揺れの違いを通じて耐震補強の重

要性を実感してもらうという大役です。当然補強されていない模型が大きく揺れるのですが、よりわかりやすく揺らすにはかなりのコツが必要であり、力加減を間違えるとあっという間に倒壊してしまうため、「大きく建物が歪んで倒壊する」というイメージを表現できません。



防災講座全景

当日の流れはこちら…

- ①建築士の役割・建築士会の活動紹介
- ②地震の恐ろしさ
- ③耐震模型による耐震化の重要性
- ④E-ディフェンスによる加振実験映像

前回の椿中学校防災講座も含め、今まで広くこの活動を牽引されてきた近藤岳志さんを中心に、近い将来発生が予測されている南海トラフ地震が30年以内に70～80%の確率で必ず発生すること、これは今すぐ発生しても全くおかしくない状況であることをスライドで説明いただきました。

津田中学校の全生徒さんの半分近くが自分や近い親族のおうちを木造住宅と回答し、そのうち1～2割の生徒さんは築年数38年以上経過したと思われる昭和56年以前(旧耐震基準)のおうちに住んでいると答えました。

近藤さんが説明しているスライドにこの講座のポイントとなる重要な写真があります。それは阪神淡路大震災発生直後の写真で、倒壊した建物が道路を塞ぎ、奥の家

屋に煙が上がっているという状況を映し出したものです。救急車や消防車などが倒壊した建物に阻まれ奥の煙が上がる家屋へ救助に行けないというこの状況は、倒壊した建物に住む人の命だけでなく、近隣や町に住む人たちの命も危険にさらすこととなり、建物の耐震化の重要性を個人の問題として考えるのではなく、町や地域のみならず広く考えていくことが「防災」として今一番求められていることだと再認識しました。

そんなスライドで生徒さんと「地震の恐ろしさ」と「耐震化の重要性」について勉強した後、先ほど少し触れました「耐震模型の加振」の実演です。2台の耐震模型の揺れの違いを生徒さんにわかりやすくお伝えするメインイベントは、緊張のあまり、結果うまく揺らすことができずあっけなく倒れてしまいました。生徒さんからも「失敗？ 今絶対失敗したよね…」と囁かれる始末…大変申し訳ありませんでした。

何はともあれ今回初めて参加した防災講座。より若い世代が建物の耐震について考えを深めること、そして広めていくこと、いつくるかわからない災害だからこそ継続していかなければなりません。建築士会の活動として「防災・減災」を地域の方々へ伝えていくこの活動を通じて、今後一人でも多くの人に木造住宅の耐震化の重要性を感じてもらい、地域の防災意識の向上につながるよう、この活動に積極的に参加していきたいと思えます。

素晴らしい防災講座に参加でき、誠にありがとうございました。



耐震模型の加震の様子



私の狭い世間と小さな目標

松山支部 門屋 広一

あれから12年、少しは成長したのか、何か変わったのか。ん？ 12年？ 今年は「申年」？ あー『年男・年女』だと思った。

さて、少し文字数も無駄遣いしたところで、建築士会に顔を出すようになったきっかけでも。子供の友人のお父さんが当時世話役をされていて、連絡をしたときに誘って頂いたのが最初です。その時、「世間は狭いな」と少し思ったのを覚えています。誰でもある経験で。

その後身内から、その子供の友人宅の隣はいとこの住いがあるのを聞きました。これまた「世間は狭いな」と。そのいとは、12歳上ですが、共通の知人と以前3人で飲んだことがありました。この時も「世間は狭いな」と。余談ですが、ある時、その子供の友人が『隣のおじさん毎朝家の前を掃除して、きれい好きが過ぎる――』と言っていたそうです。『そうかーそれは、パパのいとこだよー』と親子で笑ったのを覚えています。フォローですが、いとこはすごく真面目で几帳面なので……。しかし、私も気を付けないと、何処かで誰かが……。噂してるかも。怖い怖い。

また、建築士会でお世話になっている方と、その奥様と3人で食事をしていた際、私の幼馴染が大阪で警察官になった話をしていて『大阪の警察官？お名前は？』なんと、親戚だったのでした。またまた、「世間は狭いな」と。幼馴染は、自分の事を『警察官と犯罪者は紙一重』と言っていたような人間ですが、ご心配なく、まじめにしっかり警察官しています。これらのことを踏まえて、よく考えるのですが、今朝お会いした人も、先程レジをしてもらった人も、昨夜の飲み屋の店員さんも、もしかしたら、大事な方の知り合いかも？ と。『ほら、皆さんの隣にも』なんて。そう考えたら、煽り運転などなくなるかも……。すべての人が、知り合いと思って好感を持ってもらえるように、生活をしなければいけませんね。まずは、お酒は控えて飲みすぎに注意ですね。

お酒といえば、先日、人生の大先輩と飲んだ時「最近の目標は…」という話を聞きました。いろいろな目標があるようで。今日できる事、月単位、年単位、一生と、毎日が楽しそうでした。早速、真似をしようと考えてみました。

まず、今日単位は1回ぐらい外に出て日向ぼっこをする事(1日事務所です座ることもあるので)。3か月単位は畑の作物(じゃがいも、だいこん、さつまいも、とうもろこし)を形や大きさともに食べられるものにする。違う作物にも挑戦したいが、まずは簡単なものから。農家の方はすごいと思う今日この頃。その為に土づくりや肥料の

選別、害虫の駆除等考えていると、楽しくなってきます。年単位は庭の芝を昨年より美しくする事。刈り込む高さやミミズの駆除、ベストなエアレーションやサッチの除去剤、肥料、除草剤等。これまた、すること盛沢山です。

数年単位は、現存12天守すべてに登りたい。一昨年建築士会の方々と松江城へ行きました。昨年は宇和島城へ登りました。12天守のうち7天守は西方に在り、現在6か所は登っていました。まずは、近くの備中松山城(岡山県高梁市)から。広島にいる頃、高梁出身の同期が「松山城」と発するたびに、反応していたのを思い出します。地元の人への誇りのようです。3月には、丸亀城に登りました。坂道には、ゼーゼー言いましたが、これは早々に行かないと体力上無理になると、危機感を覚えました。

丸亀城は石垣が崩れ修復中です。そこで見た資料に、石垣の見所と写真付きで「丸亀城は打ち込みハギ」、その他に「野面積み」や「切り込みハギ」の紹介が出ていました。実際には、丸亀城は石垣の継ぎ足している場所や、角石に線引きをしていたり、加工された石材を使用したりと様々ですが。そのようなところを見たり、天守の高さ3層3階約15mの日本一小さな現存木造天守だと知ったり、城主の家紋を確認したりと、いろいろ興味が湧いてきます。

先日、お城が好きな知人に、天守閣の写真を数種類見せたのですが、全て、お城の名前を答えていました。すごいのは、岩国城の天守からの景色を見ただけでお城の名前を答えました。その後、岩国城の天守は下から見えるように少し前を出したとかのウンチクをだらだらと聞かされましたが。この際、少し興味を持って見ようかな。別格二十霊場にも行こう。焼酎3Mも飲みたい。



丸亀城天守

本日、3月26日朝時点で、新型コロナの感染者1,291人、死者45人。様々な影響が出ている様で、一刻も早い収束をお祈りします。

熱量の高い人

松山支部 白石 泰正

宮田勝広さんからお誘いを頂き、寄稿させて頂くことになりました白石です。今年度最初の「けんちくの輪」。ウラの私について書かせて頂きます。

★松山支部所属の新居浜人です。

年の始まりといえば年明けの1月や、年度始めの4月でしょうが、私は10月です。祭り好きの方ならお察しでしょう。はい、私は新居浜太鼓祭り大好き人です。16歳の時に校則に反して担き夫デビュー、今も現役です。

★豪華絢爛、勇壮華麗な男祭りと言われています。

そのとおりであります。

太鼓台の造形バランス、飾り幕のディテール、1台あたり150人超の担き夫による威勢の良さ、それは見事。骨組みのディテールも力学的にかなったものです。木材の製作は大工さんが行います。

担き棒は並列4本、材は檜、長さは各12m。中央2本が本棒、両端2本が脇棒といいます。各担き棒の中央部は太く、両先端に向けて細く加工します。これにより、かき比べでは棒がしなり（曲げ）、房が美しく割れます。

4本の担き棒を並列にするのが横棒です。担き棒と直交する形で設け、ロープで結びます。横棒も檜、長さは3.4m、太鼓台本体を中心として前後2本ずつあります。太鼓台同士の鉢合わせ時に担き棒が折れるのは横棒と結んだ所で、せん断破壊が生じるのが要因です。

担き棒と太鼓台本体を繋ぐのが台場です。樗で作られており、太鼓台の重量を支えます。建物でいうと基礎にあたります。台場の両側面には担き棒の本棒をそれぞれ緊結し、台場の四隅には4本の柱を緊結します。柱の上端には重（赤い台形状）を取り付けます。台場の中には長胴太鼓を設置し、太鼓を叩く係の2名が座る場があります。ここを欄干といい、幼少時、運行中に乗せてもらってはしゃいだことは鮮明に憶えています。台場下部には二輪車が設置され、ターンバックルで着脱できるようになっています。二輪車のタイヤはトラック用です。

イメージ伝わりますでしょうか。まだ続きます。



骨組みを囲う飾り幕等をつけた全体の大きさは、高さ5.5m、幅3.4m、長さ12m、重さ3t。でかい、重い。誰がこれを担ごうと言い始めたのでしょうか。

新居浜人のやんちゃさを感じざるを得ません。徐車して担く時には特に感じます。が、快感。

ちなみに、太鼓台がかき比べでバランスを崩し大きく傾いても、横転することはありません。正面から見た縦横比が絶妙なのです。また、飾り幕等には各々コンセプトがあり、各太鼓台とも幕の構成にはストーリーがあります。これを述べると更に長くなるので、興味のある方はネットで検索してください。

担き夫は、男性限定です。老若、強面、草食系問わず、太鼓の音を聞くと集まってきます。かき比べ後は、両肩は内出血して腫れ上がります。祭り期間で声も枯れます。全身筋肉痛になります。スパルタで、強要されている訳ではありません。150~200人の男が、太鼓台を担ぎたいという同じ想いで集い、力を合わせます。太鼓台が複数集結する場での熱気は凄まじいものです。毎度、新居浜人で良かったな、と感じる時です。笛と太鼓の音、声、動と静の振幅の大きさにより、担き夫も観客も魅了されているのでしょう。

観光大使としてはここまでです。

最後にテーマに戻ります。

★祭りのことになると、新居浜人は熱いです。

とにかく、個々の熱量が高い。

その源は、好き・楽しむ・誇りの共有であると私は捉えています。太鼓台に惹かれる同士ののだと。



これを、ものづくりの環境に置き換えてみると、どうでしょう。個々として、組織として、高いパフォーマンスを発揮し合えるだろうと期待せざるを得ません。

「けんちく」という名の太鼓台、たくさんあればいいな。そこに集う熱量の高い人たちが輪となって、かき比べが行われる。鉢合わせは禁止、平和運行で魅せ合う。

今年の祭りは土・日曜日開催です。新居浜へ是非♪
次号は、西条在住の汲田章太郎さんへ繋がります。

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

「いしづち」の本年度の原稿締切日

令和2年 7月号 (135号) 令和2年5月28日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

また宜しければ3枚程度まで題名を添付してください。

会員の皆様の後参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。 情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづちに」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(土会事務局内)宛
FAX 089-948-0061

編集後記

本号から新企画の西予支部・松山清氏による「世界建築紀行」と中村写真事務所・中村誠二氏による「スマホで撮る建築写真」の連載がスタートしました。

また、デザインも心機一転で新しく致しました。

新企画を書いて頂くことになった松山清氏は、本会の副会長の立場で広報誌作成現場の相談役として委員会に参加して頂いていました。その中で頻りに世界各国に旅をした土産話と共に世界の建築の素晴らしさを語っていました。その内容がとても私たち委員だけが聞くには勿体ないという話になり、今回から連載の運びとなりました。

中村誠二氏は、一昨年に建築士会のセミナー講師をして頂き大きな反響がありました。もっと知りたいという会員の要望に応え、セミナーでは語り切れなかった内容を連載することとなりました。

今回の新デザインや構成、編集など、もっと読みやすく、新企画がより際立つための助言をHORIUCHI DESIGNの堀内貴子氏に協力して頂きました。今後も協力して頂けることとなっています。本当にありがとうございます。

今後も広報誌「いしづち」を本会の報告や情報を得るためだけのツールだけではなく、会員が楽しく読んで頂くための工夫を日々考え、皆さんに読んでもらえる広報誌にしていきたいと思えます。

最後になりますが、今回の編集活動が最後になる委員の皆さんに心より感謝、お礼申し上げます。

〈いしづち〉2020/5

令和2年5月発行

発行人 会長 赤根良忠

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061

http://www.ehime-shikai.com E-mail:@ehime-shikai.com

印刷所 アmano印刷有限会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長/大平 将司 副委員長/渡邊 道彦

編集委員/大上 恵子 山本 晶子 政石 信行 白石 学 武智 良太 成松弘之助